# 七飯町におけるカシクルミの栽培

館　　和夫

## は　じ　め　に

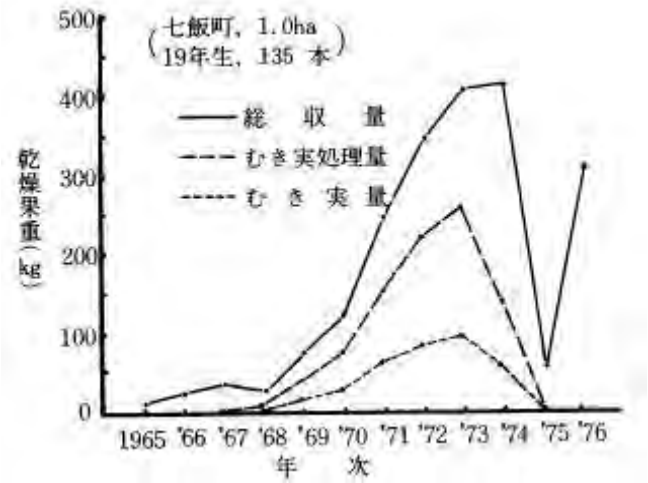
道内におけるカシクルミは，栽培歴が浅く，紹介されている経営事例も少ないようである。そこで，近年結実期をむかえた渡島管内七飯町のクルミ園の現況と成績を簡単に紹介する。

## クルミ園の概況

紹介するＳクルミ園は，函館市北方の七飯岳の西麓にあり，付近は住宅地およびリンゴ農家の点在する果樹の栽培地帯である。園地の標高は約 100 m，傾斜は 8°内外で肥沃な扇状地の土壌が分布している。付近の気象は，函館営林署七飯苗畑の観測によれば，1971 年～1975 年の平均気温が 9.1℃，年降水量は 1,153mm で，温量指数は 71 であり，気候温暖な地域である。クルミ園のまわりには，スギ，アカマツなどの保護樹帯も設けられており，カシクルミ栽培地としては環境条件に恵まれた場所とおもわれる。

１ha の園地には，1957 年に植えた 135 本のシナノクルミ系カシクルミがあり，1976 年現在，調査対象木５本の生長は平均樹高 7.9m，樹冠巾 8.0×7.6m に達している。植栽間隔は 10m のところが多いが，一部にはやや近接しているものもあり，最近はしだいに枝の重なりがめだつようになってきている。

肥培管理は，1967 年から３年間，園地中央の 70 本ほどの木を対象に，鶏糞を１本当たり 30kg 程度散布したほか，1975 年 11 月に北側の結実木 13 本に礼肥として 60%塩化加里各 0.8kg，化成肥料（成分比８：７：５）８kg を根のまわりに円形にすき込みした。そのとき使用した鶏糞は付近の鶏舎の廃棄物を利用したもので，ある程度樹高生長を促進する効果がみとめられたが，乾燥不十分のため施肥および管理上に支障があるのでその後中止したという。なお，礼肥の施用効果はまだ明らかでない。




図－１　　カシクルミの収量の推移

## 果実の収量

このクルミ園の収穫は植栽後 9 年

目の 1965 年から始まり，図のような収量の推移を経て 1976 年までに 2,079kg の累計収量をあげた。そのうち殻付のまま販売したものは 1,165kg で，残りはむき実として 1968 年から 1974 年の間に 375kg を生産した。しかし，1975 年のような著しい不結実年もあり，園地全体としてはまだ本格的な結実をみるまでに至っていないようである。 1976 年の成績では，全林の 76%に当たる 102 本が結実し，326kg の収穫があったが，これらのうちわずかに着果がみとめられる程度の結実木が 63%を占め，中位のものが 33%，多収とみなされるものは４%にすぎなかった。調査木の果房数も３果房以上のものが 20%前後と少なく，この年の結実木１本当たり収量は 3.2kg にとどまった。しかし，調査対象木１本当たりの平年収量は 7.2kg であり，最多収量が 17.4kg に及ぶものもあって,今後優良系統を中心に適切な栽培管理を行なえば十分増収が可能とおもわれる。

表－１　クルミの生長と収量

| 系統<br>(品種) | 樹高<br>(m) | 樹冠幅<br>(m×m) | 平年収量<br>(kg) | 平年結果数<br>(個) | 最多収量<br>(kg) | 累年収量<br>(kg) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| Ｓ－１ | 7.4 | 7.7×6.7 | 5.7 | 770 | 8.9 | 28.5 |
| Ｓ－２ | 6.5 | 8.1×7.1 | 6.2 | 626 | 10.7 | 31.4 |
| Ｓ－３ | 7.7 | 6.9×6.9 | 9.4 | 922 | 13.0 | 47.2 |
| Ｓ－４ | 8.5 | 8.5×8.5 | 8.7 | 853 | 17.4 | 44.3 |
| Ｓ－５ | 9.2 | 9.0×9.0 | 5.8 | 552 | 7.7 | 28.8 |
| 平均 | 7.9 | 8.0×7.6 | 7.2 | 745 | － | 36.0 |
| (晩春) | 7.1 | 6.0×6.0 | 10.5 | 716 | 13.1 | 45.5 |
| (信鈴) | 6.1 | 6.0×5.4 | 8.4 | 781 | 11.7 | 40.4 |

注　1.Ｓ－１～５は七飯町Ｓクルミ園内の実生 19 年生の成績(1972～1976)
　　2.(　　)は長野県東部町長野農試内接木 14 年生の成績(1971～1975)

## 果　実　の　品　質

調査木の殻果（果実）調査の結果は表－２のとおりで，表中下段の長野県奨励品種の果実にくらべるとやや軽く，小型であるが，むき実の歩合は平均 47%近くもあり，奨励品種におとらない水準にある。果重の平年値は 1972 年～1976 年の標本果（各系統毎年 10 個以上，累計 250 個）の調査で 9.6kg 士 1.7kg（変異係数は 17.7%）あり，粒ぞろいはふつうであった。

果実の等級は，長野県の等級規格（丸形果；特級の場合の果径 40mm・果仁（むき実）歩合 45%以上，１級の同 37mm・42%以上，２級同 34 mm・40%以上，３級・同 20～30mm・38%以上）をあてはめてみると，974 年～1976 年の果実 150 個の調査で，果実の大きさでは３%が特級，19%が１級，51%が２級，27%が３級に相当し，果仁歩合では調査果数の 83%が特級，12%が１級，2%が２級となり，このクルミ園の果実の品等は道内産もものとしては比較的良好とみとめられる。

表－２　果実の重さと大きさ

| 系統<br>(品種) | 殻果重<br>(g) | 果仁重<br>(g) | 果仁歩合<br>(%) | 縦径<br>(cm) | 横径<br>(cm) | 側径<br>(cm) | 殻皮厚<br>(mm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ｓ－１ | 7.4 | 3.6 | 48.6 | 3.6 | 3.0 | 2.8 | 1.3 |
| Ｓ－２ | 9.4 | 4.4 | 44.4 | 3.8 | 3.2 | 3.0 | 1.4 |
| Ｓ－３ | 10.2 | 4.8 | 47.1 | 3.9 | 3.2 | 3.1 | 1.5 |
| Ｓ－４ | 10.2 | 4.8 | 47.1 | 3.8 | 3.3 | 3.2 | 1.4 |
| Ｓ－５ | 10.5 | 4.9 | 46.7 | 3.9 | 3.3 | 3.2 | 1.4 |
| 平均 | 9.6 | 4.5 | 46.9 | 3.8 | 3.2 | 3.1 | 1.4 |
| (晩春) | 13.5 | 5.6 | 41.5 | 4.3 | 3.6 | 3.6 | 1.8 |
| (信齢) | 10.6 | 5.3 | 50.0 | 4.0 | 3.5 | 3.5 | 1.4 |

注 1.　調査果数各 50 個，Ｓ－１～５は 1972 年～1976 年の測定値
　 2.　晩春，信鈴は 1971 年～1975 年の測定値(参考)

## 果　実　の　処　理

このクルミ園の収穫果の慣行的な処理方法は次のようなものである。収穫期に先立って園地の下刈を行ない，自然落果をまってすみやかに網かごに採集する。洗水には 1/10 程度の米ぬかをまぜた桶の中でよく洗ってから，写真－１のような要領で１週間位天日乾燥する。乾燥済みのものは空果などの不良果を除いてから紙箱におさめ，順次希望数量ずつポリ袋詰にして販売する。むき実にする場合は乾燥済みの果実に２～３分間蒸気を通し，殻に若干の弾力を与えてから木槌で割り，なるべくむき実の形をそこなわないようにとり出す。作業功程は１人１日 10kg 前後で，殻果重に対して 70～80%の丸実（ホール），10～15%の半実（ハーフ），その他（ミックス）の製品が得られるという。しかし，作業過程で若干のロスが出ることやコスト高になること，近年は殻付の需要が多いことなどから，このクルミ園では 1975 年以降むき実の生産を中止している。

クルミの価格は，北海道クルミ振興会の調査によれば 1973 年～1975 年の道内生産者価格は殻付２級の場合で１kg 当たり 350 円～400 円(等級間較差 50 円～100 円程度)で推移し，このクルミ園でもほぼ同等の価格で取り引きが行なわれた。

なお，同期の長野県の主産地価格は 250 円～420 円程度でやや値動きが激しかったようである。むき実の価格は品質によって異なるが，この間，丸実を主体とする製品は各地とも殻付価格の３倍程度であった。

写真－１　クルミの乾燥状況

## お　わ　り　に

このクルミ園は，近年さらに生産力を高めるため，不良木の淘汰や整枝剪定，肥培などにつとめており，その結果は地域の栽培指標としても重要な意義をもっている。今後も機会をみてクルミ園の調査をつづけ，優良系統の選抜や栽培管理技術向上のための資料を得たいとおもっている。

おわりに，この稿をまとめるにあたって，調査にご協力をいただいたクルミ園の現地管理者寺門一郎氏にあつくお礼を申し上げる。

（道南支場）